

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法I						
担当教員	武藤 真一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する基本的な知識と技能の習得。						
授業の概要	英語科教育に関して基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。前期・後期とも前半は講義中心、後半は模擬授業等を中心に進める。中学校・高等学校の教材を基に教案を作成し、模擬授業やロールプレイも取り入れ実践的な指導方法を体得する。						
到達目標	教育実習や学校現場での指導に対応できる知識、考え方、基本的な指導技法を身につける。						
授業計画	<p>第1回 英語科教育法の履修にあたって</p> <p>第2回 英語科教員に求められる資質と能力</p> <p>第3回 中学校学習指導要領のねらい</p> <p>第4回 中学校学習指導要領（英語版）</p> <p>第5回 高等学校学習指導要領のねらい</p> <p>第6回 高等学校学習指導要領（英語版）</p> <p>第7回 日本における英語教育の歴史</p> <p>第8回 英語科教授法の分類と特徴</p> <p>第9回 英語教育と国際理解教育</p> <p>第10回 コミュニケーション能力の育成</p> <p>第11回 リスニングの指導技法</p> <p>第12回 スピーキングの指導技法</p> <p>第13回 リーディングの指導技法</p> <p>第14回 ライティングの指導技法</p> <p>第15回 前期のまとめと定期試験</p> <p>第16回 文字・発音・語彙の指導</p> <p>第17回 文法の指導</p> <p>第18回 先輩に学ぶ（中学校編）</p> <p>第19回 先輩に学ぶ（高等学校編）</p> <p>第20回 Can-doリストの作成と活用</p> <p>第21回 デジタル教科書の活用</p> <p>第22回 中学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第23回 中学校の模擬授業1</p> <p>第24回 中学校の模擬授業2</p> <p>第25回 高等学校の学習指導案の作成と検討</p> <p>第26回 高等学校の模擬授業1</p> <p>第27回 高等学校の模擬授業2</p> <p>第28回 模擬授業の点検</p> <p>第29回 後期のまとめと定期試験</p> <p>第30回 教育実習に向けて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業と並行して、英語教員として必要な英語力を身につける。						
授業方法	前期、後期とも前半は講義を中心に、後半は指導技法の実習および教案作成と模擬授業とその観察を中心に進める。中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、ゲストスピーカーによる講義や先輩の教育実習参加者による模擬授業と、中学校・高等学校での授業参観や授業研究会への参加を予定している（交通費・参加費等は自己負担）。						
評価基準と評価方法	教案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点（提出物、意欲、態度）30% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	<p>「新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して」 JACET教育問題研究会編（三修社） ¥2600＋税 ISBN978-4-384-04054-8</p> <p>以下のものは「中高英語教育ゼミ」で使用すると重複している。 文部科学省検定済教科書（中学校）「ONE WORLD English Course」1, 2, 3（教育出版） 文部科学省検定済教科書（高等学校）「CROWN English Communication I」（三省堂）</p>						

参考書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」(開隆堂) ¥69+税 ISBN978-4-304-04161-7 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(開隆堂) ¥150+税 ISBN978-4-304-04164-8
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	作井 恵子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得理論に基づいた語学教育をテーマとし、これについて基本的知識を習得しながら英語科教育法の実践に発展させることを目標とする。						
授業の概要	第二言語習得理論が観点から、英語の基本学習活動（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）について学び、それを土台にして各学生がそれぞれ効果的な指導法を模索していけるよう、実践的な訓練を行う。						
到達目標	第二言語習得理論についての概要を説明することができる。 またこの各理論がどう実践に応用できるかを考察する。						
授業計画	第1回 第二言語習得理論 概論 第2回 文法とは？ 第3回 第二言語習得理論からみたリーディング 第4回 リーディング教授法 第5回 第二言語習得理論からみたリスニング 第6回 リスニング教授法 第7回 すぐれた教授法（DVDをみて） 第8回 これからの中学校・高等学校教員にもとめられる英語力（ゲストスピーカー） 第9回 中学校・高等学校教員における指導について：ライティング 第10回 第二言語習得理論からみたスピーキング 第11回 スピーキング教授法 第12回 評価方法について 第13回 模擬授業および総括 第14回 音読、ティームティーチング、学級運営について 第15回 まとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	第二言語習得理論に関しては、教科書および参考書を予習、復習として熟読し、授業に臨むこと。 模擬授業に関しては、教案作成、教材開発などを授業外で準備し、実践訓練に臨むこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 30% 定期試験 40% 模擬授業 30%						
教科書	英語教員のための授業活動とその分析（昭和堂）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法III						
担当教員	作井 恵子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科指導に必要な知識を蓄積し、実践的な指導法を身につける						
授業の概要	英語科教育法I, IIで得た知識を総括し、教授法についての知識をさらに深める。模擬授業を通し実践的な教授力を身につける。						
到達目標	英語科において必要な教授法の基礎知識について説明できる。 学年、教材を想定したうえで、教案を作成し模擬授業を行うことができる。						
授業計画	Week1. 英語教育学について Week2. 国際化時代の英語教育 Week3. 共通語としての英語 Week4. 中学学習指導要領 Week5. 高校学習指導要領 Week6. 学習者について（認知的要因および動機付け） Week7. 教師について（教員に必要な英語力） Week8. 模擬授業（高校1） Week9. 模擬授業（高校2） Week10. 模擬授業（中学1） Week11. 教師について（良い教師とは：ゲストスピーカーをお迎えして） Week12. 模擬授業（中学2） Week13. さまざまな教授法について Week14. 教科書と教材研究 Week15. 総復習/まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業計画に従って、当該の予習をしていくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（模擬授業、発表）50% 定期試験 50%。						
教科書	「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」望月昭彦 編著、大修館書店						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	加藤 巡一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験を意義深いものとするために						
授業の概要	<p>中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この研究では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護、援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションのとり方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。</p>						
到達目標	各施設で迷惑をかけないで、目的に合った充実した実習が出来ること。						
授業計画	<p>第1回 制度の意義と内容 第2回 介護体験で何を学ぶか 第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」 第4回 特別支援学校における教育 第5回 特別講師による講演 「介護の実践と留意点」 第6回 高齢者の福祉と介護 第7回 介護等体験の心得および諸注意</p> <p>学校及び施設への訪問と視察指導</p> <p>第15回 体験終了者の反省と課題発表</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	第8回から第14回までを各施設（特別支援学校、高齢者福祉施設）での7日間の実習をあてている						
授業方法	講義及び実習						
評価基準と評価方法	レポート（80%）によるが、授業への取り組みの姿勢（20%）を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅰ						
担当教員	守野 美佐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教師として、自分は、「中学校、高等学校の家庭科の学習を通じて生徒たちに何を学ばせたいか、どんな力を付けさせたいか」を考える。						
授業の概要	家庭科教育の意義と独自性 本講義は、中学校、高等学校の家庭科教員をめざす者を対象とし、中学校「技術・家庭」および高等学校「家庭」についての基礎的理解をはかることを目的とする。女子教育から男女共修の教科へ大きく変化をとげてきた家庭科教育の歴史をたどりながら、現代社会における中学校、高等学校家庭科教育の意義を考える機会としたい。現行の学習指導要領の解説を通して、家庭科では何をめざし、何を教えるのか、目標や指導内容の概要について学ぶ。						
到達目標	家庭科の学習内容を把握し、自分自身の家庭科教育の目的を持つ。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 「生きる力」を考える 2. 家庭科とは 3. 家庭科のあゆみ 4. 現代生活の生活課題 1) 家族関係 5. 現代生活の生活課題 2) 家族と労働 6. 現代生活の生活課題 3) 環境と消費 7. 現代生活の生活課題 4) 情報化社会 8. 現代生活の生活課題 5) 消費者問題 9. 現代生活の生活課題 6) 社会保障とリスクマネジメント 10. 現代生活の生活課題 7) 家庭生活の抱える問題 11. 学習指導要領 1) 家庭科のカリキュラム 12. 学習指導要領 2) 家庭科の学習 13. 家庭科の授業づくりの視点 生活スキル 14. 家庭科の授業づくりの視点 シティズンシップ 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒たちが大人になるために必要な生活力とは何かを自分なりにつかむために、日常から、広く生活に関する事象に関心を持って情報をキャッチし、考える姿勢を養っておくとよい。						
授業方法	おもに講義形式だが、自分で考えて判断することや、意見を発表したり、書いたりする方法をとる。						
評価基準と評価方法	確認テスト40点 講義中の提出物20点 レポート課題40点						
教科書	家庭科教育法ⅠとⅡの講義共通で使用 中学校・高等学校 家庭科指導法 中間美砂子・多々納道子編著（建帛社） ISBN4-7679-2102-0						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法II						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科の学習指導計画						
授業の概要	本講義は、家庭科教育法 I の理解を基礎に、学習指導の計画、実践について力を養うことを目的とする。3年間、1年間、1学期間等の学習指導の計画の大切さを知り、学習効果を高める計画のあり方について考えてもらいたい。また、学習指導案の立案の仕方を学びながら、同時に多様な学習形態や学習方法を学び、各自で学習内容に合い学習効果を高める授業の工夫を考える機会を持ってもらう。実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行いながら、指導計画や授業技術について相互に評価し合い、実践力を養うことを目指す。						
到達目標	学習指導要領を理解し、自分の教育目標を明確にしたうえで、学年および年間の指導計画がたてられる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 家庭科教育で育成したい力とは 2. 学習指導要領 1) 中学校技術・家庭科の目標 3. 学習指導要領 2) 高等学校家庭科の目標 4. 生活スキルの向上をめざす視点 5. 安全・安心・健康なくらしとウェルビーイング 6. 家庭科教育における実践的なシチズンシップ教育の可能性 7. 生徒を取り巻く携帯・ネット環境の問題について 8. 生活主体・責任ある消費者を育てる消費者教育と環境教育について 9. 家計管理とクレジットについて 10. 社会保障とリスクマネジメントについて 11. 子どもの育ちと親役割の学習について 12. 多様な学習形態 13. 実験・実習を含む授業 14. 家庭科の授業づくりと評価 15. まとめと質疑、応答 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常から、広く生活に関する事象に目をむけ、情報を収集し、理解を深める姿勢を養うようにするとよい。						
授業方法	おもに講義形式で問題提起を行い、それについて、意見を発表、意見交換をする。						
評価基準と評価方法	用語確認の小テスト30% 講義内の提出物30% レポート40%						
教科書	家庭科教育法 I と II の講義共通で使用 中学校 高等学校 家庭科指導法 中間美砂子 多々納道子編著（建帛社）、ISBN978-4-7679-2102-0						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科の教材研究						
授業の概要	本講義は、家庭科教育ⅠとⅡの基礎理解をふまえ、生活の必要な技術および実践能力を養う内容を含む授業の教材研究をおこなう。						
到達目標	単元の指導計画の中に、実技実習および実践、体験を含ませ、主体的に実践しながら学べる授業を計画することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 学習の動機付けとは 2. 学習指導案とは 3. 学習指導案の書き方 4. 家庭生活と技術 調理の技術 縫製の技術 5. 健康的な食生活の実践力を養うために：1. 指導計画 中・高 6. 健康的な食生活の実践力を養うために：2. 調理実習の教材研究 中学校 7. 健康的な食生活の実践力を養うために：3. 調理実習の教材研究 高等学校 8. 環境に配慮した生活の実践力を養うために：1. 指導計画 中・高 9. 環境に配慮した生活の実践力を養うために：2. 無駄を省く工夫を促す教材研究 中学校 10. 環境に配慮した生活の実践力を養うために：3. リサイクルの小物制作を促す教材研究 高等学校 11. 小さな子どもと家庭生活：教材研究 中・高 12. 高齢者の生活の理解：教材研究 中・高 13. ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 14. 模擬授業と評価 1回目 15. 模擬授業と評価 2回目 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常の生活に目を向け、必要な技術は何か、どうやったら身につくかを考えておくとよい。						
授業方法	指導計画の作成と、教材研究およびその報告を中心におこなう。						
評価基準と評価方法	指導案の理解20% 教材研究と報告（4回）80%						
教科書	必要な資料は、その都度用意する。						
参考書	自分自身が使用した中学校および高等学校の家庭科の教科書があれば それを参考に使用する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅳ						
担当教員	片平 理子・古濱 裕樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科教育の指導法、教材開発						
授業の概要	本講義は、家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎理解と問題意識をふまえ、これらを総合するかたちで、家庭科教師としての授業能力を高めることを目標とする。模擬授業により家庭科教育の指導法や教材開発について具体的に学び、授業内容を省察・改善することを通して、家庭科教師としての実践力を養う。						
到達目標	家庭科教師に必要な能力について説明する事ができる 家庭科教師として教壇に立ち、円滑に授業運営をする事ができる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭科で育てたい力と家庭科の学習方法の特徴 2. 家庭科の教科特性と授業展開、家庭科の指導と評価 3. 教材研究の視点と方法 4. 中学校・高等学校の家庭科教科書分析 5. 教材の活用法 6. 教材開発 7. 衣生活領域の実践例 8. 教材研究 1回目 9. 保育領域の実践例 10. 教材研究 2回目 11. 食生活領域の実践例 12. 教材研究 3回目 13. 消費生活領域の実践例 14. 教材研究 4回目 15. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業準備						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	出席（50%）、授業中の課題や発表内容（30%）、教材用プリント・レポート（20%）						
教科書	家庭科への参加型アクション志向学習の導入 中間美砂子編著（大修館書店）、ISBN4-469-27001-6（家庭科教育法Ⅰ・Ⅱで使用した教科書）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	教育課程の編成						
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのかという問いに関わるのが教育課程（カリキュラム）である。本講義では、教育課程の編成に関する基本的な概念を検討したうえで、日本における教育課程の歴史の変遷について考察する。教育課程を問うとは、学校の教育内容の選択・組織という視点をもとに、学校教育のあり方そのものを問いなおすことでもある。						
到達目標	学校の教育課程の編成に関する基本的な理論を理解することをめざす。具体的には、以下の2つを主な内容として取り上げる。1. 教育課程の編成原理、2. 日本における教育課程の歴史の変遷						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程とは何か（小・中・高の教育課程を概観する） 2. 教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義） 3. 教育課程の構造1（教科学習と総合学習、学力とは何か） 4. 教育課程の構造2（教科学習と生活指導） 5. 学習指導要領に見る教育課程の変遷1（戦後民主主義と経験主義） 6. 学習指導要領に見る教育課程の変遷2（経済発展と教育内容の現代化） 7. 学習指導要領に見る教育課程の変遷3（ゆとりと生きる力） 8. 試験と講義全体の振り返り 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所について予習をする。</p> <p>授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める。</p>						
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	平常点30%（授業時の小レポートなど）、試験70% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	使用しない。プリント資料を配布する。						
参考書	<p>田中耕治他『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年</p> <p>田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第3版）有斐閣、2011年</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの学校に求められるもの						
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践をめざし、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢時代、生涯学習時代、高度情報化時代の中での教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。						
到達目標	学校の現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる						
授業計画	第1回 教育経営の概説 第2回 学校経営と教育目標 第3回 学校の組織の構築（KJ法） 第4回 発表と検討 第5回 学校の組織と経営の実態 第6回 戦前、戦後の教育制度 第7回 義務教育制度 第8回 現代の諸課題 第9回 教育法規の基礎と概説 第10回 学校の管理運営と法規 第11回 学習指導要領と法規 第12回 教職員のサービスと法規 第13回 生徒指導と法規 第14回 教育経営のまとめ 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習と法規演習						
授業方法	講義とグループ討議						
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（80%）として、発表の成果（10%）や授業への取り組み姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう						
教科書	教育原理 教師養成研究会編（学芸図書）						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。 2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で考える。 3. カウンセリングマインドを手法と背景から理解する。 4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. すでに学習してきた内容を教育学の概念から反省的に振り返る。 2. 教育学の理論のうち保育や教育に役立つような部分を活用する。 3. 問いと答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを発表する。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイスブレイク 第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第3回 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾と勝負できるか？ 第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 第9回 カウンセリングマインド(2)：さて中国の小学校は？ 第10回 教育評価を振り返る(1)：相対と絶対の違いとは？ 第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 第12回 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第13回 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第15回 まとめ：レポートの返却と成績評価の還元						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を使いますが各自でも読んでください。 2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。 						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前半は講義を主に進めます。 2. 後半は活動を取り入れます。 3. 途中で映像も折り込みます。 						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） 3. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。 						
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配布し、参考文献も紹介します。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育の心理学						
授業の概要	<p>教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者により影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみに起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。</p>						
到達目標	<p>教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤いじめ等の諸問題への対処法、⑥発達アンバランス（発達障害）</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. わかる喜び学ぶ楽しさ 2. エリクソンの生涯発達論 3. ピアジェの認知発達 4. 思春期・青年期 5. 社会性の発達 6. 社会心理学からみた「いじめ」 7. 「いじめ」を生まないために 8. 学習と記憶 9. 不適応、不登校 10. 教室での発達障害（LD、ADHD） 11. 教室での発達障害（ASD） 12. 頭の良さとは何か 13. 生徒の心理アセスメント 14. 教師の心理、リーダーシップ 15. 学級集団 筆記試験（持ち込み不可） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の予告テーマに沿った文献調べ（インターネット等を含む）と、授業中にとったノートの復習						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材利用						
評価基準と評価方法	<p>平常点（30%）と学期末の筆記試験（70%）により評価を行う。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点を考慮する。 成績不振による再テストは行わないが、テスト当日やむを得ない事情で欠席した人は、連絡の上、再受験できる場合がある。</p>						
教科書	サブノート形式のプリントを出来るだけ配布します。						
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	竹田 美知						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	これまでの教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、各々、実習校において授業やクラス運営などの実習を行う。						
授業の概要	実習に際しては、十分に教材研究をし、よく授業計画を練って、真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力してほしい。なお実習期間中は、本学教務部発行の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入し、日々の反省を翌日に生かすこと。						
到達目標	能力：実習授業の教材研究の成果を生かし、授業計画にも基づき授業が担当できるようになる 態度：生徒指導や学習指導に熱心に取り組めるようになる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の事前指導（実習の心得） 2. 教育実習の事前指導（実習の注意・指導） 3. 実習校訪問（挨拶） 4. 実習校訪問（打ち合わせ。諸注意） 5. 実習校でのオリエンテーション（学校の概要・特色） 6. 実習校担当教諭との打ち合わせ（指導方針の確認） 7. 教育実習（観察・見学） 8. 教育実習（教材研究・学習指導案の作成） 9. 教育実習（学習指導・生徒指導） 10. 教育実習（『教育実習記録』への記入に仕方） 11. 研究授業 12. 研究授業の反省 13. 事後指導（実習終了後の反省やまとめ） 14. 事後指導（教育実習記録の記入） 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	教材研究や、授業計画など						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告（80%）、及び「教育実習記録」（20%）に基づく。						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	田中 まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。						
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。						
授業計画	<p>本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける。 ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける) ・事後研究 (実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成) 						
授業外における学習(準備学習の内容)	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価(50%)、「教育実習記録」(50%)						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	武藤 眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員としての資質、能力を習得する。						
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。						
到達目標	学校現場で教科指導、生徒指導、学級指導の実際を身につけ、様々な場面で生徒に対応できるようにする。						
授業計画	<p>授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等） ・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等） ・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等） ・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等） ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業） ・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等） ・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料等を常に収集し、実習に生かせるよう努める。授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める。						
授業方法	各実習校における実習						
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」および各自が記入する「教育実習記録」に基に評価する。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書							
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税 ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂）¥69＋税 ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税 ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税 ISBN978-4-304-04164-8						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	竹田 美知・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に参加するにあたって、実習校で何をどのように学んできたいのか、自ら課題を課し、問題意識を持って学んでいく。						
授業の概要	教育の理論と実践を結びつけるをいかに図るか、そこからさらに新たな問題を自ら発見する。 単なる知識や教育技術を学ぶだけではなく、その土地に根ざし、その人々に支えられている地域の教育力を理解する。						
到達目標	知識：教育実習に先立ち、教科に必要な知識を身につける 能力：授業にどのように展開するかというスキルを身につける。 態度：実習校の生徒の状況を把握し、よりよい生徒指導・学習指導ができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義と課題 2. 教育実習の日々 3. 教育実習生の授業（家庭科における授業の在り方） 4. 生徒指導 5. 教科指導（家庭科における教科指導） 6. 先輩に聞く 7. 授業展開の実際（家庭科における授業展開の実際） 8. 教師の在り方と実践 9. 教育実習を終えて 10. 教育活動の諸課題 第1回、2回、4回、6回、8回、10回は加藤先生、第3回、5回、7回、9回は竹田が担当する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習校との連絡、見学・教材研究・学習指導案の研究						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	田中 まき・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。						
到達目標	国語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	<p>第1回 教育実習の意義と課題 第2回 教育実習の日々 第3回 教育実習生の授業（国語科における授業の在り方） 第4回 生徒指導 第5回 教科指導（国語科における教科指導） 第6回 先輩に聞く 第7回 授業展開の実際（国語科における授業展開の実際） 第8回 教師の在り方と実践 第9回 教育実習を終えて 第10回 教育活動の諸課題</p> <p>第1, 2, 4, 6, 8, 10回は加藤、第3, 5, 7, 9回は田中が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に国語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	「教育実習の研究ノート」の提出状況とその内容50%、授業態度（提出物、意欲、態度）50%で評価する。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編」 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	武藤 眞一・加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立						
授業の概要	<p>教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。</p> <p>実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。</p>						
到達目標	英語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。						
授業計画	<p>第1回 教育実習の意義と課題 第2回 教育実習の日々 第3回 教育実習生の授業（英語科における授業の在り方） 第4回 生徒指導 第5回 教科指導（英語科における教科指導） 第6回 先輩に聞く 第7回 授業展開の実際（英語における授業展開の実際） 第8回 教師の在り方と実践 第9回 教育実習を終えて 第10回 教育活動の諸課題</p> <p>第1, 2, 4, 6, 8, 10回は加藤先生、第3, 5, 7, 9回は武藤が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。常に英語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業中の発表や「教育実習の研究ノート」の提出とその内容70%、平常点（関心、意欲、態度）30%で評価する。履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税 ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂）¥69＋税 ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税 ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税 ISBN978-4-304-04164-8						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育相談の理論と方法						
担当教員	伊東 秀章						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育相談における臨床心理学的理論と方法						
授業の概要	本講義では、学校現場で起こるさまざまな問題に対する見立てのために必要な理論の講義と、それに伴う実践的なカウンセリング演習を行う。また、実際に学校現場で起こっている事例について検討するグループ演習を通して、生徒や保護者、教職員の理解の仕方や働きかけ方について学ぶ。特別支援教育については、対象となる生徒の特徴の見分け方、教室での対応の仕方、支援計画の立て方、保護者対応で考慮すべき点を理解できるようにする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談やカウンセリングについて、いくつかの理論による見立てと働きかけ方の習得。 ・ 様々な事例についてグループディスカッションを行い、生徒・教職員とのやりとりについて演習を通して理解する。 ・ 特別支援教育における保護者や教員のニーズの捉え方、配慮すべき点、支援プログラムの立て方について。 						
授業計画	第1回：教育相談の役割－教育と臨床の違いについて 第2回：さまざまなカウンセリング理論－精神分析、来談者中心療法 第3回：さまざまなカウンセリング理論－認知行動療法、家族療法 第4回：思春期・青年期における発達段階 第5回：思春期・青年期における精神疾患の特徴 第6回：学級集団や集団内の対人関係の見立て方－システム理論について 第7回：保護者・教員へのコンサルテーション 第8回：不登校 第9回：いじめ問題 第10回：非行、虐待問題 第11回：特別支援教育－さまざまな発達障害の特徴 第12回：特別支援教育－支援計画の立て方と教室での対応 第13回：特別支援教育－発達障害をもつ子どもや家族の理解の仕方と対応 第14回：予防的な関わりについて－ストレスマネジメント 第15回：まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自、講義内容を自分なりにまとめること。疑問や意見などがあれば、積極的に発信すること。						
授業方法	講義形式であるが、具体的な事例や問題を考える形式で進める。随時、グループワークやディスカッションを行なう。						
評価基準と評価方法	平常点：出席状況と講義の積極的な参加(30%) レポート：小レポートの提出(30%) 試験：期末試験による評価(40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適正」の3観点で行なう。						
教科書	特にありません。						
参考書	吉川悟編（1999）システム論からみた学校臨床、金剛出版 吉川悟編（2009）システム論から見た援助組織の協働、金剛出版						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本						
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に、実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりに必要な基本的な知識と技術を獲得する ・これまでに実践されてきた授業を検討し、授業の特徴を把握できる ・学習指導案を作成できるようになる ・受講生同士で他者の指導案を検討し、改善に向けて議論ができる 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるかについて議論する。</p> <p>第2回 授業の構成要素（1）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と、実践に生かす際の留意点について学ぶ。</p> <p>第3回 授業の構成要素（2）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。</p> <p>第4回 授業の構成要素（3）：効果的な発問や板書の類型や方法について学ぶ。</p> <p>第5回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材のあり方について考える。</p> <p>第6回 教育実践事例の検討（2）：討論を取り入れた授業のあり方について考える。</p> <p>第7回 教育実践事例の検討（3）：ワークショップ型の授業のあり方について考える。</p> <p>第8回 教育実践事例の検討（4）：探究型の授業のあり方について考える。</p> <p>第9回 学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくりについて考える。</p> <p>第10回 情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。</p> <p>第11回 学習指導案づくり（1）：学習指導案の作り方について学び、実際に作成してみる。</p> <p>第12回 学習指導案づくり（2）：学習指導案づくりを行う（前回の続き）</p> <p>第13回 模擬授業：作成した指導案に沿って授業を行い、指導案を改善する。</p> <p>第14回 子どもとの向き合い方：教師としてどのようなことに気をつけながら子どもと向き合い、教育実践を進めていくのかについて考える。</p> <p>第15回 まとめと講義全体のふりかえり：教育方法論で学んできたことをふりかえり、ポイントを確認する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前時に行う予告に従い、次時の授業の準備を行うこと。 授業後学習：授業内容をふりかえり、要点の整理を行うこと。また、復習の過程で質問事項が出た場合には、次の授業で質問することによって、授業内容の確実な定着をめざすこと。						
授業方法	講義（ただし、グループ活動などの演習的要素を含む）						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点50%（講義でのワークシートや小レポート、模擬授業の発表）、最終レポート50%から総合的に判断する。 ・5回以上欠席した場合には単位認定は行わない。 ・「意欲」については、講義への参加の様子や授業毎の課題などの完成度を中心に評価する。 ・「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。 ・「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。 						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	<p>①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年</p> <p>②田中耕治編著『時代を拓いた教師たち―戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年</p> <p>③田中耕治『新しい時代の教育方法』有斐閣、2013年</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	竹田 美知・加藤 巡一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける。						
授業の概要	<p>主な授業は実際の教育現場を想定して下記の項目を取り扱う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う。 ②生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める。 ③教科内容等の指導力を高める ④社会性や対人関係能力を伸ばす。</p>						
到達目標	<p>教員になるという前提での自己分析をできる。 教員としての使命感や責任を感じる。 生徒指導や学級経営の知識と技能がつく。 模擬授業を通して教科の指導力がつく。 社会人としての基本的態度や協調性がつく。</p>						
授業計画	<p>第1回 履修カルテへの記録と気づき 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験してわかった弱点（教科指導以外）と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 学級経営1：年間計画の作成と発表 第7回 学級経営2：生徒用ポートフォリオの作成 第8回 教育実習を体験して分かった弱点（教科指導）の自覚と発表 第9回 授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善 第10回 模擬授業1：教材などの活用と話し方など表現力のチェック 第11回 模擬授業2：形成的評価の観点など 第12回 テストと評価の方法 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレーとロールレタリング 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業などの教材開発、指導案の作成、生徒用ポートフォリオの作成、評価テストの作成など						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果（70%） 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など（30%）						
教科書	なし						
参考書	適宜に担当教員が作成し配布する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	田中 まき・釣 年子・加藤 巡一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して						
授業の概要	<p>主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題</p>						
到達目標	<p>学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。</p>						
授業計画	<p>第1回 履修カルテへの記録と気づき 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 学級経営1：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第7回 学級経営2：生徒用ポートフォリオの作成 第8回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導)の自覚と発表 第9回 授業構成の改善：研究授業の学習指導案の提示と改善 第10回 模擬授業1：教材などの活用と話し方など表現力のチェック 第11回 模擬授業2：形成的評価の観点など 第12回 テストと評価の方法 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレーとロールレタリング 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：ゲストスピーカーによる講演 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7、13～15回は加藤、第8～12回は田中が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学習指導案の改善など						
授業方法	講義と演習・発表						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果を主資料（70%）として授業の取り組みの姿勢（30%）を加味する。						
教科書	なし						
参考書	適宜に担当教員が作成し配布する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	武藤 眞一・加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教育実習の経験を踏まえ、学校現場に対応できる資質・能力を伸長する。						
授業の概要	<p>主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイなどを組み合わせて実際の教育現場を想定し、下記の教育問題を取り上げる。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力に関する課題</p>						
到達目標	<p>これまでの授業や教育実習を通して身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかを最終的に確認する。この科目の履修を通じて、将来、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。</p>						
授業計画	<p>第1回履修カルテへの記録と気づき 第2回教師の使命感と責任 第3回教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回生徒指導2：保護者の要望などへの対応などの事例研究 第6回学級経営1：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイ 第7回学級経営2：生徒用ポートフォリオの作成 第8回教育実習を体験して分かった弱点(教科指導)の自覚と発表 第9回授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善 第10回模擬授業1:教材などの活用と話し方など表現力のチェック 第11回模擬授業2:形成的評価の観点など 第12回テストと評価の方法 第13回社会人としての基本的態度と組織における協調性1:ロールプレーとロールレタリング 第14回社会人としての基本的態度と組織における協調性2:ゲストスピーカーによる講演 第15回改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7回及び第13～15回は加藤先生、第8～12回は武藤が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>教育に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、当該の問題について自分ならどのように対処するかを考える。専門である英語についてコミュニケーション能力、文法・語法・語彙、文化的背景の習得に努める。</p>						
授業方法	講義、演習、発表、ロールプレイなどを組み合わせて行う。						
評価基準と評価方法	毎時間の発表や提出物の内容70%、平常点（関心、意欲、態度）30%						
教科書	その都度プリントを配布する。						
参考書	<p>「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税 ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説 外国語編」（開隆堂）¥69＋税 ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税 ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税 ISBN978-4-304-04164-8</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職入門						
担当教員	武藤 眞一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教員という仕事の難しさやおもしろさに触れ、教職を目指して歩み出そう。						
授業の概要	これまでの生徒・学生としての立場から、教員の立場に立って学校教育に係る諸問題をとらえ直し、講義やグループ討議を通して、学校教育の現状や教員に求められる資質や能力を理解する。また、自分が教員としての適性を持っているか、どうすれば教員にふさわしい資質や能力を身につけることができるかを考察する。						
到達目標	学習指導や生徒指導の基本的な理論や技法と学校教育に係る諸課題への対応法を習得するとともに、学校運営や学級運営の実際を理解し、自らの教員としての資質や能力を身につけること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（教職課程で学ぶということ） 第2回 教員に求められる資質と能力 第3回 生徒・教員・学校が抱える諸問題 第4回 教科指導の在り方 第5回 生徒指導・進路指導の在り方 第6回 問題行動・不登校・発達障害の理解と対応 第7回 学校運営と校務分掌 第8回 学級運営の在り方 第9回 道徳・総合的な学習の時間・特別活動の指導 第10回 家庭・地域・関係機関との連携 第11回 日本の教育制度と教員養成の歴史 第12回 教員の地位と身分 第13回 教育課程の編成と学習指導要領 第14回 学校教育に係る法制度 第15回 まとめ（今後の教職課程履修に向けて）、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	一般教養、教職教養と各自の専門科目の学習に取り組むこと。 教育に係る新聞記事やニュースに関心を持ち、自分の考えをまとめること。						
授業方法	講義およびグループ討議・発表を並行して進める。 A4のファイルを用意し、配布プリントを綴じ込み、毎時間持参すること。						
評価基準と評価方法	試験（40%）、提出物・授業中の発表（30%）、授業態度（関心・意欲・態度30%）をもとに評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	毎時間プリントを配布する。						
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）ISBN978-4-8278-1461-3 ¥244 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）ISBN978-4-8278-1478-1 ¥588 「改定新版 教職入門 教師への道」吉田辰雄・大森正編著（図書文化）ISBN978-4-8100-9311-7 ¥1890						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教師論						
担当教員	尾崎 多						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子ども、保護者、地域から信頼される教師像を追求する						
授業の概要	著名な教育者の教育観や教育の移り変わりを熟知したり、現代教師の実態を把握したりしながら教師改革の視点を探る。また、教師として好ましい資質を多方面から捉え、信頼される教師をめざす意欲を高める。さらに、理論と現実の融和を図り、確固たる教育観を身につける。						
到達目標	今、必要な教師の資質・能力などについて学び、子ども・保護者・地域から信頼される教師像を探る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 専門職としての教師像 第2回 教師としての行き方をさぐる 1 - 過去の教育者に学ぶ 第3回 教師としての行き方をさぐる 2 - 文芸に描かれた教師像・子ども像 第4回 学校教育の歴史 第5回 教員の職務内容と役割・義務 第6回 教員に求められる資格・資質・能力 第7回 生徒につけたい力 第8回 保護者・地域の要望 第9回 教育課程と学習指導要領 第10回 学習指導の在り方・授業力 第11回 子どもと正面から向き合う生徒指導 - 校則・子どもの権利 第12回 教科外指導 - 防災教育・食育教育 第13回 各校種の実態 - 小学校・中学校・高等学校の実態 第14回 教育観をもつ - 理想とする教師像 レポート 第15回 教育観の再考 - めざす教師像						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、テレビ、雑誌等から、教育や教職に関する情報を入手しておく。						
授業方法	講義・演習を中心に行う。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度）2割、演習点（提出物・資料整理）2割、レポート点（信頼される教師像が描けているか）2割、テストの成績4割で、総合評価をする。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	1 中学校学習指導要領解説 総則編 2 『教育六法』 姉崎洋一 荒牧重人 小川正人他 三省堂 3 『教師論の現在 文芸からみた子どもと教師』 原田 彰 北大路書房 4 『学校が見える教職論』 片山紀子 富永直也 他 大学教育出版 5 『新編 教えるということ』 大村はま ちくま文庫 』						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法I						
担当教員	田中 まき						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。また、国語力の向上のために、小テストを重ねる。						
到達目標	国語科教育の意義、目標、方法等の理論と指導法の習得						
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 国語科教育の意義についての講義</p> <p>第2回 国語科教育の目標についての講義</p> <p>第3回 国語科に関する教育法規についての講義</p> <p>第4回 学習指導要領についての講義</p> <p>第5回 コミュニケーション力養成の演習</p> <p>第6回 プレゼンテーション力養成の演習</p> <p>第7回 教材研究と授業の展開の立案についての講義</p> <p>第8回 教材研究と授業の展開の立案についての演習</p> <p>第9回 学習指導案作成の講義</p> <p>第10回 学習指導案作成の演習 1</p> <p>第11回 学習指導案作成の演習 2</p> <p>第12回 授業展開の研究 1</p> <p>第13回 授業展開の研究 2</p> <p>第14回 国語力養成の演習 1</p> <p>第15回 国語力養成の演習 2</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 国語科授業のあり方についての講義</p> <p>第2回 評論教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第3回 評論教材の模擬授業 1</p> <p>第4回 評論教材の模擬授業 2</p> <p>第5回 小説教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第6回 小説教材の模擬授業 1</p> <p>第7回 小説教材の模擬授業 2</p> <p>第8回 詩歌教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第9回 詩歌教材の模擬授業 1</p> <p>第10回 詩歌教材の模擬授業 2</p> <p>第11回 古文教材の学習指導案作成の演習</p> <p>第12回 古文教材の模擬授業 1</p> <p>第13回 古文教材の模擬授業 2</p> <p>第14回 表現指導のあり方についての講義</p> <p>第15回 国語科教育についてのまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	『国語科指導法の実践と資料』（双文出版）編著者 大柳勇治・堀江忠道・山本伸二 ISBN978-4-88164-088-3						

参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省
-----	--

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法II						
担当教員	森 美智代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国語単元学習の授業づくりの基礎						
授業の概要	国語科教育に関する理論的な基礎知識とその実践的展開力を養うことを主な目的とする。個々に学習指導案を作成し、模擬授業を実施・検討を行うことで、国語科授業づくりのための素養を身につける。						
到達目標	国語科の教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導計画を作成できること。						
授業計画	第1回 ガイダンス（目的と概要） 第2回 国語科教育の歴史（1）戦前 第3回 国語科教育の歴史（2）戦後 第4回 国語科教育の内容と方法（国語科単元学習について） 第5回 読むことの授業づくり（1）文学的文章指導の授業について 第6回 読むことの授業づくり（2）説明的文章の授業について 第7回 書くことの授業づくり 第8回 話すこと・聞くことの授業づくり 第9回 教材研究の理論と方法 第10回 学習指導案の作成（1）目標設定と指導計画 第11回 学習指導案の作成（2）本時の授業計画 第12回 模擬授業の実施 第13回 模擬授業についての検討と授業の再構成 第14回 模擬授業の実施（前回の検討を受けて） 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教科書に採録されている文章の原典を読んでおくこと						
授業方法	講義を中心としたワークショップ型の授業形態						
評価基準と評価方法	授業内で出題されるレポート、最終レポート・テストによって評価する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	授業内において適宜紹介する						
参考書	授業内において適宜紹介する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	森 美智代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	国語単元学習の授業づくり						
授業の概要	国語科教育に関する理論的な基礎知識とその実践的展開力を養うことを主な目的とする。個々に学習指導案を作成し、模擬授業を実施・検討を行うことで、国語科授業づくりのための素養を身につける。						
到達目標	国語科の教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導計画を作成できること。						
授業計画	第1回 ガイダンス（目的と概要） 第2回 国語科の授業分析の視点と方法（1）分析視点の抽出 第3回 国語科の授業分析の視点と方法（2）分析と検討 第4回 国語科授業の指導案検討（1）目標論 第5回 国語科授業の指導案検討（2）方法論 第6回 国語科授業の指導案検討（3）教材論 第7回 国語科授業の指導案検討（4）発達論 第8回 国語単元学習における教材分析 第9回 国語単元学習における言語活動 第10回 学習指導案の作成（1）目標設定と指導計画 第11回 学習指導案の作成（2）本時の授業計画 第12回 模擬授業の実施 第13回 模擬授業についての検討と授業の再構成 第14回 模擬授業の実施（前回の検討を受けて） 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習予定校における国語科教科書を読んでおくこと。						
授業方法	講義を中心としたワークショップ型の授業形態						
評価基準と評価方法	授業内で出題されるレポート、最終レポート・テストによって評価する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	授業内において適宜紹介する						
参考書	授業内において適宜紹介する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	全ての生徒のよりよい人格的成長を目指して						
授業の概要	現在、社会的に関心の高い学校におけるいじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校等の反社会的問題行動、非社会的問題行動について、教職に就く者に不可欠な学問としての基礎知識、学校の現状把握、問題の解決能力等を高めることを目標としている。特に、ロールプレイングを含む事例研究を多く取り入れ、一つ一つの事例について学生個人個人はどのように考えるのか、学校の現場ではどのように対応しているのかについて体験から述べ、比較しながら解決に繋がるより良い対応を考察する。						
到達目標	学校における生徒指導の実態を知り、生徒指導に関する知識、対応の仕方、理想の在り方を修得する。						
授業計画	第1回 生徒指導の意義 第2回 生徒指導の課題と実践 第3回 生徒指導の基礎理論（適応の概念） 第4回 生徒指導の基礎理論（適応の過程） 第5回 子どもの自我形成 第6回 生徒理解（心理検査） 第7回 生徒理解（まとめ） 第8回 非社会的問題行動 第9回 不登校への対応 第10回 反社会的問題行動 第11回 いじめの防止と解決 第12回 進路指導の意義と実践 第13回 事例研究（進路指導を含む） 第14回 生徒指導のまとめ 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし						
授業方法	講義、グループ討議						
評価基準と評価方法	試験の結果を主資料(85%)として、発表内容や授業への取り組みの姿勢(15%)を加味する。履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書							
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動指導法						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫						
授業の概要	近年、児童・生徒が対人関係に悩んだり集団生活に溶け込めないという状況が多く見られる。また、異年齢集団や地域との交流に関して、地域の持つ教育力は極端に弱くなっている。これらの課題に深く関わる特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。そのためには、学級（ホームルーム）活動、生徒会活動及び学校行事等をできるだけ児童・生徒側に企画実践を任せて、教師は距離をおいてそれを見守る指導により、自立した集団と個の育成を図ることが重要である。学生諸君はかつての経験呼び起こしながら、どうすればより有効な指導になりうるのか体験的に研究する。						
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることが出来ること(学習指導要領の内容を理解し、具体的な計画が立てられること)						
授業計画	第1回 特別活動の改訂の経緯と趣旨 第2回 特別活動の目標と意義 第3回 特別活動の内容相互の関連 第4回 学校行事のあり方と実践 第5回 グループ別研究(学校行事について) 第6回 発表と検討(1) 第7回 発表と検討(2) 第8回 生徒会活動のあり方と実践 第9回 個人研究(HRの年間計画) 第10回 学級(HR)活動のあり方と実践 第11回 グループ別研究(学級新聞の活用) 第12回 発表と検討(1) 第13回 発表と検討(2) 第14回 特別活動のまとめ 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題学習						
授業方法	講義、グループ討議・発表						
評価基準と評価方法	定期試験を主資料(80%)として、研究発表の成果(10%)や授業への取り組みの姿勢(10%)を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう						
教科書	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 著 文部科学省(東山書房) 中学校学習指導要領解説 特別活動編 著 文部科学省(ぎょうせい)						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳指導法						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領による道徳教育の位置づけを説明する。 2. 道徳指導案を紹介しつつ、倫理学的背景を解説する。 3. 指導案作成、模擬授業、相互評価を学生同士で行う。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育にみる道徳の役割と指導法を理解する。 2. 道徳教育のあり方を倫理学の視点から振り返る。 3. 学習指導要領を参考にして授業実践力を伸ばす。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション：私語の倫理学 第2回 体験した道徳教育：グループで発表 第3回 指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第4回 指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第5回 道徳の教材研究(1)：自己 第6回 道徳の教材研究(2)：他者 第7回 道徳の教材研究(3)：自然・環境 第8回 道徳の教材研究(4)：集団・社会 第9回 倫理学からみた道徳：身体の自由は本当か？ 第10回 模擬授業の実践(1)：自己 第11回 模擬授業の実践(2)：他者 第12回 模擬授業の実践(3)：自然・環境 第13回 模擬授業の実践(4)：集団・社会 第14回 模擬授業の実践(5)：その他 第15回 まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	「道徳の時間」の指導案をしっかりと準備してください。						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前半は講義を基本にディスカッションも行います。 2. 後半は学生グループの模擬授業を中心に行います。 						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点30点（コメント、授業貢献など） 2. 模擬授業40点（学生の相互評価を含む） 3. 学期末レポート30点（模擬授業の考察） 4. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。 						
教科書	井ノ口淳三『道徳教育』学文社、2007年。 ISBN:978-4-7620-1661-5						
参考書	『中学校学習指導要領解説 道徳編』						